

令和８年度第１回大野城市芸術文化振興審議会会議録

日時：令和８年７月２１日（火） １０：３０～１２：１０

場所：市役所本館４階 全員協議会室

出席者：委員 小林京子会長、大澤寅雄副会長、糸山裕子委員、中嶋真理子委員、永野薫子委員、安河内俊明委員、池田祐次委員、齋藤廣樹委員

事務局：佐護コミュニティ文化課長、荒牧コミュニティ文化課芸術文化担係長、栗崎主事、二本木（記録）

欠席：松永雅子委員

資料 【資料１】大野城市芸術文化振興プラン実施スケジュール（案）
【資料２】大野城市芸術文化振興プラン令和８年度実施スケジュール（案）
【資料３】令和８年度実施内容一覧
【資料３－１】ツナグトレポーター制度について
【資料３－２】こどもレポーター体験について
【資料３－３】ツナグト交流会について
【資料３－４】（仮）『希望のキャンパス～まどかぴあアートギャラリー～』事業について

１ 開会

２ 市長挨拶

３ 会長・副会長選出

委員の互選により、会長に小林京子委員、副会長に大澤寅雄委員が選出された。

４ 審議事項

① 大野城市芸術文化振興プラン実施スケジュール

【資料１】大野城市芸術文化振興プラン実施スケジュール（案）

事務局

【資料２】大野城市芸術文化振興プラン令和８年度実施スケジュール（案）

事務局

事務局の説明の後、質疑。

⇒質疑、意見なし

②令和8年度実施予定内容について

1 知ろう（情報・理解）

〔資料3〕 令和8年度実施内容一覧

〔資料3-1〕 ツナグトレポーター制度について

事務局

事務局の説明の後、質疑。

【質疑・意見】

安河内委員

レポーター制度は、今行われているのは敷居が高いのではないかという印象がある。もう少し芸術文化に興味がない人たちもやってみようかな、応募してみようかなという風にしたほうがいいのではないか。講座の中身も含めてもう一度考えた方がいいような気がする。

事務局

事務局も市民の方に幅広くというよりも、芸術文化に興味をいつも持っている方対象になってしまっていると思う。興味のない人にも「ちょっと参加してみたいな」と思わせるような参加募集の仕方、チラシの書き方など周知方法を検討していくことでより多くの人々がレポーターに参加してもらえるようにしたい。レポーターは募集をしたら10名程度は来てくれている。一定数いる。

安河内委員

継続性が気になる。絞り込むといづらくなる。2, 3年したら辞める人がいるかもしれない。むしろこれを利用して、普段関心のない人たちの目線で取材レポートを書くのも面白いのではないか。

事務局

レポーターになるには、レポーター養成講座に参加する必要がある。レポーター養成講座に気軽に参加できる環境が必要である。アナウンスの仕方等を検討したい。

2 行こう（参加）

〔資料3〕 令和8年度実施内容一覧

事務局

事務局の説明の後、質疑。

【質疑・意見】

糸山委員

ラジオドラマは継続的にされている。その中でファシリテーター的にも改善されているだろう。参加している人たちの満足度としては上がっている感じか。

事務局

コミュニティをまわっているので、例えば南コミュニティセンターに参加した人は次の東コミュニティセンターには参加できない。同じ人の満足度は測れないが、感触としては楽しんでいただけていると考えている。

糸山委員

全地区回ったあとに、どうしめくくるか考えた方がいい。コミュニティセンターごとに物語の質も違うだろう。大野城市は割と大きいので、都市部と地域性の強いところでは物語が違う。お互いの地区の話を聞いてもらう機会などがあったほうがいいのでは。コミュニティを一巡したときには次の何かを考えた方がいい。

安河内委員

大野城の昔話などをまとめた冊子などはあるか。

事務局

文化財の担当が民話を収集しているので、まとめた本があるのではないかと思うが確かではない。

安河内委員

ラジオドラマと合わせれば効果があるのではないか。

事務局

四王寺山の話もでてくるので、地域に伝わっているものと繋がるだろう。

安河内委員

子ども達に再認識してもらういい機会になると思う。

中嶋委員

大野城にまつわることで、「大野城物語」というものを、大文字まつりで行っていた。そういうのを本にさせていただくと思う。アニメで子どもたちにわかりやすく見せていた。これが今年の「大文字まつり」から終了となる見込みであり、残念。毎年行っていて、毎回泣くほどいいものなので、ぜひ残して

もらいたい。

小林会長

他の課や地域にも伝えて、つながりをもってやってもらいたい。

3 育てよう（育成・養成）

〔資料3〕令和8年度実施内容一覧

〔資料3-2〕こどもレポーター体験について

事務局

事務局の説明の後、質疑。

【質疑・意見】

大澤副会長

「福岡県アーツカウンシル」に関しては、私と糸山委員含め県で検討している。まだ詳細は見えていないが、来年度公益財団法人であるアクロス福岡で県全体を視野に入れた文化芸術の振興を行う。県全域ということにこだわっている。都市部だけでなく全体を盛り上げていこうという方針である。中間支援組織というのは説明が難しい。文化芸術を行う人を応援するという組織である。詳細がわかれば共有する。質問したいのが、レポーター講座に関して、1知ろうの中でも「敷居が高いのではないか」というご意見があったが、それは確かにそのような印象を受ける。レポートする対象の事業がどのように決められているのか知りたい。

事務局

市主催のイベント、まどかぴあや心のふるさと館で行われるイベントである。その他に、レポーターが行きたい場所等でも構わないというアナウンスをしている。

大澤副会長

「レポート」という言葉が「宿題に答える」みたいな堅さがある。レポーターが自分が書きたいものを書けているか気になった。広げすぎかもしれないが、民間の映画などでもいいのではないかな。身近なことである文化がレポートできれば、もっと身近に発信できるのではないかな。レポートを見た人が「発信してみたい」と思うなど、書く人の先をイメージしながら進めるといいと思う。

事務局

レポートを見ていただいた方の反応や感想を把握することは重要であると感じ

ている。レポートを見た人の反応があれば、レポーターのモチベーションも上がるだろう。その先の把握等について、どのように行っていくか検討中である。

糸山委員

那珂川市にある別所区と山田区の夏祭りを同日開催から別日に開催することになった。そうすると、山田区の子供たちが別所区に来る。そのように他区に行くことが面白い。祭りなどの楽しさを上手くレポートにして、共有できるようにすると、面白いと思う。上手いツールを作って、「お祭りでもいいよ」とアナウンスすると子供たちも書くのではないか。

小林会長

まどかぴあで 30 周年の舞台などがあるので、松平健コンサートなどのレポートで、「楽しかったよ」ということを伝えるのも、文化施設の紹介にもなる。また地域のお祭りも継承していく文化なので、レポートすることは効果的である。

事務局

取材場所の選定について、広く捉え、かつ気軽にレポートが書ける仕組みを検討していきたい。

大澤副会長

プッシュする情報がどういう風にリアクションされるかを把握できるといいと思う。今までのホームページやチラシ等ではリアクションがわからなかった。SNS だと反応が把握できる。リアクションがリアクションを呼ぶという風になると単なる発信だけで終わらない。例えばレポーターが発信したものが「いいね」や「ハートマーク」がつくなどである。どういうレポートがリアクションが多いのか、傾向を読み取ると、こういうレポートが広がりを生むのだなとわかる。また、ジャン・レノの公演を見に行ったレポートで、それを見た人がジャン・レノの映画をしてみるなど、紐づいて広がる。1 回のレポートで終わってしまうのはもったいない。そのような工夫があるといい。

事務局

ツナグトサイトの閲覧回数等を分析しようと考えている。インスタグラムでもリアクション数などを分析したい。

糸山委員

子ども向けレポーターについて、テトルなどで発信はしたか。

事務局

発信はしていない。

糸山委員

子ども達がイベントに行くには親が知らないといけない。親に情報を届けないと広がらない。テトルなどに流して、連携する必要があると思う。ぽんプラザホールで照明・音響の体験イベントを開催した際、市政だよりに載せただけで、応募多数であった。無料ということもあるだろうが、体験させたい親が多い。最後の発表の時間では、親が多く見に来た。今は親子が一体化して動く時代である。その連動をしてほしい。

事務局

「こどもレポーター体験」について、子ども達向けのみの周知では集客が難しいと感じている。次回は流したい。

大澤副会長

公演に足を運ぶ動機は、「誘われてきた」ということが多い。そこが大事な要因。行きたくなる情報発信と同時に誘いたくなる情報発信が大事。LINE等の発信でチラシを配れなくなっている。親が情報の取捨選択をしてしまう問題がある。親自身の文化体験の有無や関心の度合いによって、子どもに情報を与えないようになってしまう。文化格差が広がっていることを深刻にとらえている。親が子どもを誘いたくなる情報なのかどうか、子どもが子どもを誘いたくなるか、これが大事である。でないと世代格差が埋まらないと思うので、子どもレポーター体験は「子どもが子どもを誘う」ことが起きるといいと思う。

事務局

確かに、子どもの体験格差が広がっている。夏休みなどにも旅行に行った、行かなかったなどの体験の差があったりする。いただいたご意見をふまえ、親が子どもを誘いたくなる、子どもが子どもを誘いたくなる、親が子どもに行かせたくなるような内容を考えたい。

4つなろう（連携・融合）

〔資料3〕令和8年度実施内容一覧

〔資料3-3〕 ツナグト交流会について

〔資料3-4〕 (仮)『希望のキャンバス～まどかぴあアートギャラリー～』事業について

事務局

事務局の説明の後、質疑。

【質疑・意見】

小林会長

希望のキャンバスについては、既存のスペースに設立するのか。

事務局

まどかぴあの（大ホール前）掲示板のところに飾る予定。

小林会長

展示期間や入れ替えは決まっていな

事務局

具体的な運用については、まどかぴあと検討中である。詳しいところはまだ決ま

大澤副会長

職員向け研修の様子を聞きたい。市役所の職員の中で、芸術文化を経験して「自分の課でこういう施策に活かしたい」等の感触やリアクションはあったか。

事務局

職員研修の様子について、具体的に「この課でこのような施策に活かしたい」というところまで築けることはできていない。しかし、コミュニケーションのツールとして、「芸術文化の考え方」を活かしたいという声はあった。また、新規採用職員から、最初の新規採用研修で、このようなワークショップがあれば、お互いを知ることができて、仲良くなれたという意見があった。業務に活かしてもらうには、具体的な提案をコミュニティ文化課からしないと難しいと昨年度から考えている。

小林会長

例えばリサイクルされたものを使って作品を作ろうというのがある。他の課の協力がいるので、そのような感じで連携すると面白い。

糸山委員

おそらく参加した人はなにかしら掴んで帰ると思うが、「どう業務に結び付けたらいいんだろう」と悩むのではと思う。とある心療内科の敷地内で大人の演劇部をやっている。病院が主催かどうかは不明で関係性がわからないが、病院の敷地内で大人の演劇部が月一で公募し、なにかしらのワークショップをやっている。それは保健衛生や引きこもりなどの悩みを解決するものとワークショップが結びついてると思う。具体例のある事例集を調べると出てくると思う。ヒントを渡してあげると、良いと思う。きっかけづくりが大事である。

事務局

そういった事例を探したいと思う。つなげる中間の役割はコミュニティ文化課がするべきだと考える。

大澤副会長

職員向け研修は社会福祉協議会等の外郭団体に職員以外に呼びかけはしているか。

事務局

市役所職員のみにはしか呼びかけていない。

大澤副会長

必ずしも何か連携して事業につなげる必要はなく、コミュニケーションの在り方を見つめなおすきっかけになっているのも十分な成果である。外郭団体という表現が正しいかはわからないが、公共的な性質のある機関にも声をかけるとより一緒にできることが増えると思う。糸山委員が言っていた事例は思いつくところがあるので、何かあれば共有したい。

小林会長

大野城市役所に役者がいると聞いている。生活安全課でひったくりなどの防犯の劇をしたときに監修していたような気がする。そのようにもっとつなげていけると思う。

5 活かそう（資源活用）

〔資料3〕令和8年度実施内容一覧

事務局

事務局の説明の後、質疑。

【質疑・意見】

安河内委員

高架下複合施設とはどのあたりにどのくらいのスペースでできるのか知りたい。

事務局

主に筑紫中央高校の前である。2つの部屋の貸館があると聞いている。筑紫中央高校と高架下をつなげる大屋根の下でもイベントができるスペースができる予定。その他、高架下は広いので、（一社）大野城市にぎわいづくり協議会が主体となって、出展をしたり、イベントを開いたりすると聞いている。

小林会長

高架下活用の担当課はどこか。

事務局

連立・高架下活用推進課。（一社）大野城市にぎわいづくり協議会はプロモーション推進課が担当している。そこと連携しながら進めていきたい。

大澤副会長

ツナグトサイトによって、登録アーティストと場所提供した人のマッチングの事例はどのくらい起きているか知りたい。

事務局

実績は令和7年度として、4件把握している。社会福祉協議会から依頼が1件、一般の方に歌を作る人を紹介したのが1件、ランドセルクラブに2件紹介している。

大澤副会長

つながることが大事。登録者数の多い少ないは一つの目安になるが、実際にどんな反応が起きているかが成果として求められる。交流会では、対面で出会う機会である。それとネット上で出会う場面もあり、それらが相互に高め合い、成果を共有して広げられるといいと思う。「織りなす」という言葉がマッチする。一方通行で発信ではなく、様々なアクションが交錯して豊かになる。方針ごとに細分化するよりも、いろいろな取り組みが相互に影響するのが「織りなす」ということだと思う。登録団体も大事だが、それで何が起きたか把握で

きるようなアンケートがとれるといいと思う。

事務局

現状、ラジオドラマ、レポーター等が独立しているので、相互に連携して、相乗効果に繋がれたらと思っている。そこが課題だと思っている。

5 閉会

以上